# 青少年の組織キャンプで使われる生活技術の習得時期-事例による検討-

白木 賢信 (東京家政大学)

## 【要旨】

本論文では、青少年の組織キャンプで使われる生活技術の習得時期と日常生活で使われる生活技術の習得時期の関係を分析する枠組を提出しその有効性を事例で検討した。枠組は、生活技術を生活の機能的領域で捉える軸と、生活技術の習得時期を捉える軸を組合せるもので、どのような生活技術がどのくらいの時期に習得されているかを分析しようとするものである。この枠組を事例で検討すると、キャンプで使われる生活技術のほとんどがキャンプ経験約4年以内に習得され、日常生活で使われる生活技術の習得時期はキャンプ経験約3年以降に集中している。

#### 1. 目的

本論文は、青少年の組織キャンプ(以下、キャンプと表記)で使われる生活技術の習得時期と日常生活で使われる生活技術の習得時期の関係を解明するための分析枠組を提出して、その有効性についての検討結果を提示しようとするものである。

1998 年、1999 年には、(1)キャンプで使われる生活技術は、事前に計画されたキャンプ活動を実施しながら習得されるが、その活動はどのような活動であるのか、(2)(1)の活動で使われる生活技術は、実際にはどの程度うまく行使されているか(これを生活技術の遂行状況と呼ぶ)、という二点について事例で検討を行ったが、(1)については、衣食住を満足させる活動などの生物的機能維持を目指す活動にウエイトが置かれており $^{11}$ 、(2)については、食事に関する生活技術の場合、準備や備えに関する生活技術の遂行状況が最も低くなっていた $^{12}$ 。

しかし、これまでの検討では、衣食住を満足させるのに使われる生活技術の遂行状況は、 キャンプ活動の中でキャンプで使われる生活技術を繰り返し用いて習得していくことで高 くなるのか、キャンプに参加するまでに日常の生活技術を習得することで高くなっている のかなどがまだ分からない。また、キャンプ効果の面から、キャンプで使われる生活技術 を習得することによって、日常生活で使われる生活技術のうち何か習得されたものがある のかどうかについても未検討である。

これらのことを明らかにするには、キャンプで使われる生活技術習得と、日常生活で使われる生活技術習得の影響関係を明らかにする分析枠組を提出し、それを用いた分析を行う必要があるが、今回は影響関係までは取り上げず<sup>3)</sup>、差し当たり今回は、キャンプで使われる生活技術の習得時期と日常生活で使われる生活技術の習得時期の関係を分析するための枠組を提出して、その有効性の検討結果を提示することにしたい。

## 2. 研究方法

前述の目的を達成するために、今回は、キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期を分析する枠組を試案として提出して、その有効性を事例を用いて検討することにした。有効性の検討にあたっては、キャンプの継続的参加者のキャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期を事例に用いるが、そのデータ収集のために第1表のような調査を行った。

## 第1表 調査の概要

調査内容:キャンプで使われる生活技術の習得時期、日常生活で使われる生活技術の習得時

期、属性(学年・性)、キャンプ参加歴、他

調査対象:キャンプの継続的参加者

被調査者:キャンプ指導者団体 S 主催事業の継続的参加者 4)

被調査者の抽出方法:有意抽出法

(第一段階) 2000 年および 2001 年に実施された主催事業参加者のうち、キャンプの継続的 参加者 16 名を抽出した。

(第二段階)第一段階で抽出したキャンプの継続的参加者の野外炊事等の作業場面を観察し、 キャンプで使われる生活技術を身につけている者3名を有意抽出した。

調査方法:面接法(自由面接法)

調査日および場所:

(第1回調査) 2001年10月14日、アイセル21 (静岡市中央公民館・女性会館)

(第2回調査) 2001年10月27日、富士宮市市民文化会館

(第3回調査) 2001年10月28日、被調査者の自宅

被調査者のプロフィール

第1回調査被調査者(以下、被調査者A): 高校2年生・女子、キャンプ初参加は1995年

第2回調査被調査者(以下、被調査者B): 高校3年生・女子、キャンプ初参加は1995年

第3回調査被調査者(以下、被調査者 C):中学3年生・男子、キャンプ初参加は1997年

#### 3. 研究結果と考察

まず、今回提出する枠組は、第2表のように、生活技術を生活の機能的領域で捉える軸 (表側)と、生活技術の習得時期を捉える軸(表頭)を組合せるものである。

第2表 キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期の分析枠組

		キャンプ	キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期												
キャン	生物 的 機能 維持の領域				,										
プれ・る	秩序の維持の 領域														
日常生活技術	生活への意味 づけ・動機付 けの領域														

この表で、表側を生活技術を生活の機能的領域で捉える軸にするのは、これまでに提出した分析枠組と同じ考え方で生活技術を捉えておく必要があるためで(具体的な項目は第3表を参照)。表頭のような時期の軸を設定するのは、キャンプで使われる生活技術が習得されてから日常生活で使われる生活技術が習得されるのか、キャンプで使われる生活技術が習得されるのか、キャンプで使われる生活技術の習得の前に日常生活で使われる生活技術の習得があるのかを捉える必要があるためである。この枠組を用いると、どのような生活技術がどのくらいの時期に習得されているかを捉えることができると考えられるが、それを事例で説明しながら枠組の有効性について検討しようと思う。

事例については、研究方法で述べたように、キャンプの継続的参加者を対象に調査を行ったが、第4表はその調査結果をまとめたものである ®。その見方について、表中のNo.19「作業の段取りの決め方(炊事)」を例に説明しよう。この生活技術は、生活の機能的領域でみれば、生物的機能維持の領域の衣食住に関する日常的な物質的満足のためのもので、炊事の仕方の一部の生活技術で、炊事に関する作業の段取りの決め方である。「キャンプで使われる生活技術(a)」の中の「習得者・習得の時期」の欄には、「A2001 年頃(高 2)」と「B1995 年頃(小 6)」となっている。これは、「作業の段取りの決め方(炊事)」について、被調査者 A は 2001 年頃、A 自身が高校 2 年生の頃に習得し、被調査者 B は 1995年頃、B 自身が小学 6 年生の頃に習得したことを示している。また、B の右隣の欄には右向きの矢印が付いており、その右隣には「クラスで行う作業の段取りの決め方」とあり、そのさらに右隣には「1999 年頃(高 1)」と記されている。これは、被調査者 B は、キャンプで「作業の段取りの決め方(炊事)」を習得したあとで、日常生活で「学校のクラスで行う作業の段取りの決め方」を習得したことを示し、その時期は 1999 年頃であることを表している。

第4表の調査結果を第2表の枠組に当てはめると、第5~8表のようになる。第5表は、生活の機能的領域でみたキャンプで使われる生活技術と、キャンプで使われる生活技術の習得時期を組合せた枠組である。ここでいう習得時期はキャンプ経験年数であるが、キャンプに初めて参加してから何年かという1年単位で捉えている。表中のセルには、1人あるいは1項目でも該当すれば〇印が付けられる。第6表は、第5表を日常生活で使われる生活技術について作成した枠組で、第5表、第6表の枠組でみれば、キャンプで使われる生活技術のほとんどが参加者がキャンプを始めて約4年以内に習得され、日常生活で使われる生活技術の習得時期は参加者のキャンプ経験約3年以降に集中している。第7表は、表頭のキャンプで使われる生活技術の習得時期を学年で捉えたもので、第8表は、それを日常生活で使われる生活技術にしたものである。

今回は3名のデータであるので、本格的な分析は今後の課題になるが、これらの枠組を 用いることで、キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得時期の関係は、キャンプ経 験年数や習得時の学年でみればどのようであるかを捉えることができるであろう。その他、 例えば、キャンプで使われる生活技術の習得後、どのくらい経つと日常生活で使われる生 活技術が習得されるのかという観点を入れた枠組なども考えられる。

#### 4. 今後の課題

今後は、キャンプの継続的参加者のデータをさらに収集して分析を行いながら、今回試

## 第3表 キャンプで使われる生活技術

_		第3衣 キャンノ (	· DC4	7400710	WIII
№	生活の機 能的領域	キャンプで使われる生活技術	№	生活の機 能的領域	キャンプで使われる生活技術
1	生物的機	設営の仕方	54	(衣食住に	├米の炊き具合の確認・調整の仕方
	能維持の	├作業の段取りの決め方	55	関する日	<b>- 炊き上がりの確認の仕方</b>
3	領域	├役割分担の仕方	56	常的な物	└水の補充の仕方
4	(++ A H-)-	トテントの張り方	57	質的満足	Lコッヘルのかまどからのはずし方
5	(衣食住に 関する日	/ マ 17月ソツル正元(14)	58	一続き)	└米以外の料理の仕方
6	関リの口 常的な物	└テントの組立方	59		├材料の切り方
7	質的満足)	トタープの張り方	60		└包丁の使い方
8		└□□プ結索法	61		└調理の仕方
9		├かまどの作り方	62		├配膳・食事の仕方
10		├石の運び方	63		ト料理のとりわけ方
11		└石の積み上げ方	64		├食器の並べ方
12		トテーブルの作り方	65		し食器の使い方
13		Lテーブル周りの整地法	66		└後片づけの仕方
14		しいすの作り方	67		-食卓の片づけ方
15		├いすの周りの整地法 -	68		├食器の洗い方
16		├杭の打ち方	69		└汚れの落とし方
17		ロープ結索法	70		-洗剤の使い方
18		炊事の仕方	71		└水滴の取り方
19		上作業の段取りの決め方	72		-食器の片づけ方
20		-かまどの使い方	73		Lごみ処理の仕方
21		├消火の準備の仕方	74		トごみ分別の仕方
22		├水の準備の仕方	75		└残飯処理の仕方
23		L砂または土の準備の仕方	76		撤収(後片づけ)の仕方
24		│ ├点火の準備の仕方	77	(睡眠や排	トイレの使用法
25		├薪置き場の作り方	78	世など生	シュラフの使い方 
26		トつけ木・焚き付けの作り方	79	物的動因	野宿の仕方
27		├────────────────────────────────────	80	の解決)	トシェルターの作り方
28		├枯枝の探し方・集め方	81		ービバーク地の整地法
29		├枯枝の折り方	82		トロープ結索法
30		└薪の割り方 └かちの告いさ	83		└屋根の張り方 - └宮はの佐り古
31		しなたの使い方 1 # 0 円 禁 0 仕 ナ	84		ト寝床の作り方
32		├薪の保管の仕方 └恭の公籍の仕去	85	/唐中へ4º	Lシェルターの片づけ方 ませの子味の仕士
33		ト薪の分類の仕方	86 87	(健康の維	害虫の予防の仕方
34		└雨などからの保護の仕方 ├点火の仕方		14)	防寒具の着方
35			88	华安久华	雨具の着方 グループのよい、 トの充海の共士
36 37				秩序の維 持の領域	グループのメンバーとの交流の仕方
38		ト校を付けの組み方		コリマンドの機構	グループ内の約束事の作り方
39		Lつけ木・薪の組み方	91		グループで起こった問題の解決の仕方
40		上火の火床への入れ方 	92 93		キャンプ場のルールの守り方 係の決め方
41		-火の火床への入れ方 			株の伏め方 キャンプファイアーの仕方
42		一大の調則の11万  -薪の補充の仕方		生活への 意味づけ・	ト薪組の仕方
43		「新の備先の14万 「空気の入れ方			
44		L火の消し方	97	の領域・	自由時間での遊び方
45		ト火の置きの散らし方	98		登山の仕方
46		- 一人の置きの取りこの	99		登出が任力 釣りの仕方
47			100		MTB等自転車の乗り方
48			101		野草の採集方法
49		ト米の炊き方	102		工作(クラフト)の仕方
50			103		沢・川での行動の仕方
51		├水のコッヘルへの入れ方	104		活動記録の作り方
52		トコッヘルのかまどへのかけ方	105		活動発表の仕方
53		コッヘル内の残水の確認の仕方	106		集い(セレモニー)の仕方
		7			VIS

第4表 キャンプ・日常生活で使われる生活技術の習得の時期

生活の機			第4次 キャンノ・ロ吊生店 C	区47400生活収	州の百年	<b>一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一</b>	
8	No.	生活の機 能的領域	キャンプで使われる生活技術(a)				
8	7		タープの彫り方(設骨)	C1007年頃(小5)			
19		生物的機					
19	8	能維持の	- ニューノ・結案体	C2000年頃(甲2)			
(	19		作業の段取りの決め方(炊事)	A2001年頃(高2)			
(		<b>谀</b>		B1995年頃(小6)	$\Gamma \rightarrow$	学校のクラスで	1000ÆÆ
に関する 27 物質的満 28 足) 38 足) 31		(衣食住			Ì	行う作業の邸取	1999年頃
10   10   10   10   10   10   10   10	1				ŀ		(高1)
23						りの次め万	(1~2-)
2.7   物質的満   上表の収し方・集め方   上社の収し方・集め方   上社の収し方・集め方   上社の収し方・集め方   上水床の売かし方   上水水の水床への入れ方   上水の水床への入れ方   上がの側の仕方   上部の組み方   上次の外床への入れ方   上がの側がの仕方   上部の組み方   上次の外床への入れ方   上がりのかした   上がりのの上方   上がりのの上方   上がりのの上方   上がりのでい方   上の工の使い方   上の工の性の上方   上の工の使い方   上の工のをい方   上の工のをい方   上の工の使い方   上の工のをい方   上の工のをがの仕方   上の工の主がした   上の工のをでがした   上の工のでの主がした   上の工のでのでがした   上の工のでがした   上の工のでは   上の工のでがした   上の工のでがした   上の工のでがした	26	日常的な	つけ木・焚き付けの作り方(かまど)		i		
A	27	物質的満	├- <del>林</del> き付けの作り方	B1996年頃(中1)	1		1
	75		L牡牡の物i 士、毎み士	21770   X( 12)	l		
- なたの使い方	-20-	足)					1
- なたの使い方	. 29				1		
- なたの使い方	30		└薪の割り方	C1997年頃(小5)			
	31		したたの使い方		ŀ		
			上しの仕上(かま)	(1007年度/小公			
	. 33			C199/平頃(小3)			
	36		-火床の乾かし方				
技術性の   大の大郎   大郎	37		上火床の作り方	B1996年頃(中1)			
199	20					ļ	
40	-30-						
40	39						
41	40		└火の火床への入れ方				
42	41				T		1000年辰
33				C1007年頃(小5)		家での料理の仕	1998年頃
38	42		下新の備尤の任力	(179/平頃(小3)	i –	方	(1/6)
一切	43		└空気の入れ方		L	1	
一切	58		米以外の料理の仕方	4.1000 F (# cha)	I	家での料理の仕	1999年頃
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	50		Ltt*Lomn+	A1998年頃(甲2)	→		
「日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本のは、日本の				Dinock Exchin		ウェクを用った	100年頃
73							
73	61		└調理の仕方	C1997年頃(小5)	→	方	(小6)
73			,,, = ,—,,		l ←	家での包工の使	不明
73							' ' '
74						<del> </del>	
100   MTB等自転車の乗り方   C1998年頃(小ら)   一学校の授業等での自転車の乗り方   C1998年頃(小ら)   MTB等自転車の乗り方   C1998年頃(小ら)   MTB等車両乗り方   C1998年頃(小ら)   Pびの授業の仕方   C1998年頃(小ら)   Pびの授業の   C1998年頃(小ら)   Pびの授業の   C1998年頃(小ら)   Pびの授業の   C1998年頃(小ら)   Pびの授業の   C1998年頃	73					物(文戸且かど)	1999年頃
一元	74		トごみ分別の仕方	A1998年頃(中2)	→		
(睡眠、健   10   10   10   10   10   10   10   1	75			,		の即約の江方	(甲3)
下水・大き   下水・大・大・大き   下水・大き   下水・大き   下水・大き   下水・大き   下水・大き   下水・大き   下水・大き   下水・大き			一一一一	01007年頃(小)		<b></b>	
雨具の着方   C1998年頃(小6)   日月の着方   日月の着方   C1998年頃(小6)   日月の着方   日月の着方   C1998年頃(中3)   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のイン   日月のインバーとの交流の仕方   日月のイン   日内のイン   日内のイン   日月のイン   日内のイン   日月のイン   日内のイン	. 82	(睡眠 健	ローノ結系法(野債用のシェルター)				
雨具の着方   C1998年頃(小6)   日月の着方   日月の着方   C1998年頃(小6)   日月の着方   日月の着方   C1998年頃(中3)   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のインバーとの交流の仕方   日月のイン   日月のインバーとの交流の仕方   日月のイン   日内のイン   日内のイン   日月のイン   日内のイン   日月のイン   日内のイン	87		防寒具の滑方	C1998年頃(小6)	L	L	L
##  ##  ##  ##  ##  ##  ##  ##  ##  #	88	/对 不胜 1寸/	雨具の着方	C1998年頃(小6)			! !
持の領域		秩序の維			<b>—</b>	部活・クラスでの	1998年頃
B1997年頃(中2)	97		グループのメンバーとの交流の仕方	TT222 - 24 (.1.2)	·	INCIM > >	
7	1	持い関係					
1999年頃(小6)   一分ので記さった問題の解決の   1999年頃 (中1)   1999年頃 (中1)   1999年頃 (中1)   1999年頃 (中1)   1999年頃 (中3)   1999年頃 (中	1			B1997年頃(中2)	→		
1999年頃(小6)   一分						交流の仕方	(髙2)
7ループで起こった問題の解決の   A1998年頃(中2)   → 部活での問題解   1999年頃 (中3)   1999年頃 (中3)   20001年頃 (中3)   分ラスでの話し合 いの仕方   グラスで行う作業 の役割分担の仕 方   学校の授業等で の役割分担の仕 方   受技の授業等で の発表の仕方   グラスで行う作業 の役割分担の仕 方   グラスで行う作業 の発表の仕方 (中3)   グラスで行う作業 の発表の仕方   グラスで行う作業 の発表の仕方 (中2)   グラスで行う作業 の発表の仕方   グラスで行う作業 の発表の仕方   グラスで行う作業 の名表の仕方   グラスで行う作業 の名を表の仕方   グラスで行う作者   グラスで行う作業 の名を表の仕方   グラスで行う作業 の名を表の仕方   グラスで行う作業 の名を表の仕方   グラスで行う作者   グラスで行う作者   グラスで行う作者   グラスで行う作者   グラスで行う作者   グラスで行う作者   グラスで行う作者   グラスで行う				C1000年頃(小公		進級時の新たか	1000年頃
91       グループで起こった問題の解決の 仕方       A1998年頃(中2) B1999年頃(高1) C1999年頃(中1)       → 部活での問題解 決の仕方       1999年頃 (中3)         93       係の決め方       B1999年頃(高1) C1999年頃(高1)       → クラスで行う作業 の役割分担の仕方 の役割分担の仕方       2000年頃 (高2)         96       生活への 意味づけ・ファイアー)       プラスで行う作業 の役割分担の仕方 ファイアー)       ご1998年頃(小6)       → 学校の授業等で の発表の仕方       2000年頃 (中3)         98       動機づけ の領域       受力の仕方 ファイアー)       日1997年頃(中2) C1997年頃(小5)       → 荷物の多い時の 運び方       2000年頃 (中2)         100       MTB等自転車の乗り方       B1996年頃(中1) C2000年頃(中2)       → 登校時等での自 転車の乗り方       2000年頃 (中2)         105       活動発表の仕方       C1998年頃(小6)       → 学校の授業等で の発表の仕方       2001年頃 (中2)			·	(1770十岁(710)	·	とはのかりかけたる	i .
仕方   日1999年頃(高1)   一分ラスでの話し合   2001年頃 (中3)   クラスでの話し合   パッの仕方   インッの仕方   インッの代表の仕方   インッの代表の仕方   インック・ファイアー   一分・スタンツの仕方   インック・ファイアー   一分・スタンツの仕方   インック・ファイアー   一分・スタンツの仕方   インック・ファイアー   一分・スタンツの仕方   インック・ファイアー   一分・表の仕方   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   イン・ファイアー   イン					<b></b>	及悪ツ作り力	117(77)
仕方   日1999年頃(高1)   一分ラスでの話し合   2001年頃 (中3)   クラスでの話し合   パッの仕方   インッの仕方   インッの代表の仕方   インッの代表の仕方   インック・ファイアー   一分・スタンツの仕方   インック・ファイアー   一分・スタンツの仕方   インック・ファイアー   一分・スタンツの仕方   インック・ファイアー   一分・スタンツの仕方   インック・ファイアー   一分・表の仕方   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   インック・ファイアー   イン・ファイアー   イン	91			A1998年頃(中2)	→		
B1999年頃(高1)	1 .		仕方		l	決の仕方	! (中3)
C1999年頃(中1)			·	B1000年頃/宜い	I	l	<b>!</b> ``~′
100   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   105   1					1	カニファの野 ム	2001年頃
93	1			し1999年頃(甲1)	l →		
93	L., 1				L	いの仕方	(中3)
96 生活への 意味づけ・ファイアー)   100	93		係の決め方	B1999年頃(高1)	→	クラスで行う作業	2000年1
96 生活への 意味づけ・ファイアー)   100			PIL - PATE / P	/ //(/////		の役割公坦の仕	といい千頃
96 生活への 意味づけ・ファイアー) C1998年頃(小6) → 学校の授業等で 2001年頃 の発表の仕方 (中3) 動機づけ の領域 B1997年頃(中2) → 荷物の多い時の 2000年頃 (中2) 100 MTB等自転車の乗り方 B1996年頃(中1) 2000年頃 (中2) → 登校時等での自 転車の乗り方 (中2) ※ での授業等で の発表の仕方 (中3) が の発表の仕方 (中3)					1		(髙2)
意味づけ・ファイアー) の発表の仕方 (中3) 動機づけ の領域 営山の仕方 B1997年頃(中2) で1997年頃(小5) が 荷物の多い時の 2000年頃 (中2) が で2000年頃 (中2) が でから ででの自 (中2) が である。 では、							i '
意味づけ・ファイアー)       の発表の仕方 (中3)         98 動機づけの領域       登山の仕方       B1997年頃(中2) (1997年頃(小5)       一 荷物の多い時の運び方 (中2) (中2)         100       MTB等自転車の乗り方       B1996年頃(中1) (2000年頃 (中2)       → 登校時等での自転車の乗り方 (中2)         105       活動発表の仕方       C1998年頃(小6)       → 学校の授業等での発表の仕方 (中3)	96			C1998年頃(小6)	→	字校の授棄等で	2001年頃
98 動機づけ の領域 登山の仕方 B1997年頃(中2) 100 MTB等自転車の乗り方 B1996年頃(中1) C2000年頃(中2) → 登校時等での自 転車の乗り方 (中2) 105 活動発表の仕方 C1998年頃(小6) → 学校の授業等で の発表の仕方 (中3)		意味づけ・	ファイアー)		I	の発表の仕方	(中3)
の領域 C1997年頃(小5) → 荷物の多い時の 2000年頃 運び方 (中2)  MTB等自転車の乗り方 B1996年頃(中1) C2000年頃(中2) → 登校時等での自 2000年頃 転車の乗り方 (中2)  活動発表の仕方 C1998年頃(小6) → 学校の授業等で 2001年頃 の発表の仕方 (中3)	700	動機ベは		B1007年頃/由か	t		!
運び方 (中2)   100   MTB等自転車の乗り方   B1996年頃(中1)   C2000年頃(中2)   → 登校時等での自 転車の乗り方 (中2)   105   活動発表の仕方   C1998年頃(小6)   → 学校の授業等で 2001年頃 の発表の仕方 (中3)	70		五田へんてい		I	世帯のない性へ	2000年時
MTB等自転車の乗り方   B1996年頃(中1)		の領域		C1997年頃(小5)	ı →		
MTB等自転車の乗り方   B1996年頃(中1)						運び方	(中2)
C2000年頃(中2) → 登校時等での自 2000年頃   転車の乗り方 (中2)   (中2)   学校の授業等で 2001年頃   の発表の仕方 (中3)   (中3)   (中3)	100		MTR等自転車の乗り方	B1996年頃(中1)	Τ	T	[
転車の乗り方 (中2) 105 活動発表の仕方 C1998年頃(小6) → 学校の授業等で 2001年頃 の発表の仕方 (中3)	***		*****			段が時年での白	2000年頃
105 活動発表の仕方 C1998年頃(小6) → 学校の授業等で 2001年頃 の発表の仕方 (中3)		1		C2000平頃(甲2)	ı →		
	L				L	転単の乗り万	(甲2)
	105		活動発表の仕方	C1998年頃(小6)	<b>→</b>	学校の授業等で	2001年頃
メントがけ、いまなけんの知復れて調本で判明された。ののでは「キャインと 知復事け連邦大学のでは、【TJ/			THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NOT THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NAMED IN COLUMN TW		I		
						・・ ノロダヘ・ノ   ユーノリ	

※ここでは、(a)または(b)の習得が本調査で判明されたもののみ記入されている。 習得者は被調査者の記号、習得時期は西暦(当時の学年)で示した。 ※※ここでは、(a)の習得のあとで(b)の習得があった場合を→、(b)の習得のあとで(a)の習得があった場合を←としている。

第5表 キャンプで使われる生活技術の習得時期ーキャンプ経験年数の場合-

	$\overline{}$			+	ヤンフ	で使	われる	生活	技術の	)習得	時期(	キャン	プ経	険年数	<b>(</b> )	
l		_	1年未満			以上 未満		以上 未満	3年以上 4年未満		4年以上   5年未満		5年以上 6年未満		6年.	以上
L				他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他
+	生物的機 能維持の 領域	(衣食住に関 する日常的な 物質的満足)	0	<b>○a</b> )					0	О <b>b</b> )						
ヤンフ		(睡眠や排泄 など生物的動 因の解決)														
で使われる	Į.	(健康の維持)														
の生活技	秩序の維持の領域 生活への意味づけ・動機				0		0		0		0					
術	生活への意 づけの領域	味づけ・動機		()c)	0					<b>Od)</b>						

## a)秩序の維持の領域

- b)財・サービスの生産・分配の領域
- c)財・サービスの生産・分配の領域 d)財・サービスの生産・分配の領域

第6表 日常生活で使われる生活技術の習得時期ーキャンプ経験年数の場合ー

	$\overline{}$			日										験年数	汝)	
l			1年未満			以上 未満		以上 未満_	3年以上 4年未満		4年以上 5年未満		5年以上 6年未満		6年.	以上
			同	他	同	他	同	他	同		司	他	同	他	司	他
	生物的機 能維持の 領域	(衣食住に関 する日常的な 物質的満足)			0						0					
日常生		(睡眠や排泄 など生物的動 因の解決)														
日常生活で使わ		(健康の維持)														
れる生	財・サービス の領域 	の生産・分配								Oa)		Оb)				
	秩序の維持	の領域					0		0		0	Oc)	0			
	生活への意 づけの領域	味づけ・動機							0							

a)生活への意味づけ・動機づけの領域

- b)生物的機能維持の領域(衣食住に関する日常的な物質的満足)
- c)生物的機能維持の領域(衣食住に関する日常的な物質的満足)

第7表 キャンプで使われる生活技術の習得時期-学年の場合-

5	$\overline{}$									生活		•	得時		年)			
l		\	小学5年		小学	6年	中学	21年	中学2年		中学3年		髙校1年		髙校2年		高校	3年
			同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他
+	生物的機 能維持の 領域	(衣食住に関 する日常的な 物質的満足)	0			()a)			0	Оь)								
ヤンプ		(睡眠や排泄 など生物的動 因の解決)																
で使われ		(健康の維持)																
る生活技術	秩序の維持の領域				0		0		0		0		0					
術	生活への意 づけの領域	味づけ・動機		(၁၀)	0				0	<b>Od)</b>								

- a)秩序の維持の領域
- b)財・サービスの生産・分配の領域
- c)財・サービスの生産・分配の領域
- d)財・サービスの生産・分配の領域

第8表 日常生活で使われる生活技術の習得時期-学年の場合-

	$\overline{}$					日常	生活	で使	われ	る生活	技術	の習	得時	期(学	年)			
			小学5年		小学6年		中学1年		中学2年		中学3年		高校1年		髙校2年		髙校3年	
			同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他	同	他
	生物的機 能維持の 領域	(衣食住に関 する日常的な 物質的満足)			0						0							
日常生		(睡眠や排泄 など生物的動 因の解決)																
日常生活で使わ		(健康の維持)																
れる 生	財・サービスの生産・分配 の領域									()a)		Оь)						
活技術	秩序の維持	の領域					0		0		0			()c)	0			
	生活への意 づけの領域	味づけ・動機									0							

- a)生活への意味づけ・動機づけの領域
- b)生物的機能維持の領域(衣食住に関する日常的な物質的満足)
- c)生物的機能維持の領域(衣食住に関する日常的な物質的満足)

案として提出した枠組の有効性について検討を加えていく必要があろう。またデータ収集 法にあっても、キャンプの継続的参加者がキャンプで使われる生活技術をどのように習得 しているか、さらにそれによって日常生活で使われる生活技術をどのように習得している かを追跡的に捉える方法を検討する必要もあるが、これも今後の課題の一つである。

## 注記・引用文献

- 1) 拙稿「青少年の野外教育における生活技術習得活動の分析枠組」(『日本生涯教育学会 論集』19、pp.57-66、1998)。具体的には、食事作り、テント張り、野外炊飯のための かまど作りなどがキャンプでいう衣食住を満足させる活動である。
- 2) 拙稿「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析ー食事の場合ー」(『日本生涯教育学会論集』20、pp.133-140、1999)。
- 3) このことについては、別の機会に改めて述べることにしたい。日常生活で使われる生活技術を新たに習得することだけではなく、今まで使っていた生活技術を変容させたりすることなど、生活様式の変容も視野に入れておきたいが、今回はそれは取り上げない。
- 4) この主催事業は毎年夏季に実施されるキャンプで、継続的参加者はこれに4年連続で参加している者としている。キャンプでは、参加者は8人前後の男女学年混合のグループに分かれ、各グループに担当指導者1名が配置されている。キャンプ生活は全日テント泊で、炊事はほとんどがキャンプ場に設置されたかまどを使用した裸火による野外炊事である。キャンププログラムについては、前掲「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析ー食事の場合ー」を参照。
- 5) 本研究では、生活技術を、生活に必要な機能的条件を遂行するための技術、行動の仕方として捉えている。これまで、目的で述べた(1)の検討については、生活に必要な機能的条件の考え方による生活技術習得活動の分析枠組を提出し(前掲「青少年の野外教育における生活技術習得活動の分析枠組」を参照、生活の必要な機能的条件については、Bennett,John W. & Tumin,Melvin M., Social Life:Structure and Function, Alfred A.Knopf, New York, 1949, pp.45-59を参照。)、(2)の検討については、技術論の研究成果を手がかりに生活技術遂行の分析枠組を提出した(前掲「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析一食事の場合一」を参照)。
- 6) 表頭の時期について、今回は1年単位としたが、それはキャンプの実施時期が夏季に 集中しているからである。
- 7) 日常生活で使われる生活技術の習得時期については、本来、日常生活における全ての活動からその習得時期を探る必要があるが、今回はまずキャンプで使われる生活技術の習得とのかかわりで取り上げることにしている。また目的でも述べたように、日常生活で使われる生活技術の習得がキャンプで使われる生活技術の習得に影響していることも考えられるが、影響関係までは捉えず、日常生活で使われる生活技術のうち何か使うことができるようになったあとで、キャンプで使われる生活技術を習得したものがあるかどうかで捉えている。
- 8) 生活技術によっては、キャンプ・日常生活ともに同領域のものもあれば、他の領域に 影響し合うものもあろう。この領域のずれは注目すべき点で、今後詳細に検討する必要 があると考えられるので、表頭の各欄に「同」と「他」の2つの欄を設けている。